アカペラ活動（イベント・コンサート等）における新型コロナウイルス（COVID-19）対応ガイドライン
[緊急事態宣言・蔓延防止等重点措置解除時]

2021年11月19日(金)
一般社団法人全日本アカペラ連盟

本ガイドラインについて

一般社団法人全日本アカペラ連盟は、厚生労働省発表の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」（2021 年 6 月 17 日発表）「新型コロナウイルス感染症に関する今後の取組」（2021 年 9 月 28 日発表）をもとに、より安全にアカペラ活動を再開していくためのガイドラインを作成した。各アカペラサークルにおける、感染症に対する認識の再確認や、活動申請を出すための書類として本ガイドラインを使用することを奨励する。緊急事態宣言時、蔓延防止等重点措置時では適用外とし、その際は「アカペラ活動（イベント・コンサート等）における新型コロナウイルス（COVID-19）対応ガイドライン（2021 年 6 月 30 日発表）」のものを適用すること。また、実際に活動を行う場合はあくまでも各会場が示す方針を基本とし、本ガイドラインと併せて使用すること。本ガイドラインは、アカペラ活動経験のある医師・全国各地のアカペライベント団体・その他関係者の意見等を十分に踏まえ作成されており、今後も必要に応じて適宜改定を行うものとする。

参考：厚生労働省 HP
新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針
（2021年6月17日）

参考：厚生労働省HP
新型コロナウイルス感染症に関する今後の取組
（2021年9月28日）

新型コロナウイルス感染経路

①飛沫感染（咳・くしゃみ・会話による感染）
②接触感染（手で触れることによる感染）
③エアロゾル感染（浮遊する微粒子を吸い込むことによる感染）

参考：厚生労働省 HP
新型コロナウイルスを防ぐには

一般的な予防方法

①３つの密（密閉・密集・密接）５つの場面 を避ける
②手洗いや咳エチケット
③目・鼻・口に不用意に触れない（肩から上は基本的に触れない）

参考：厚生労働省 HP
国民の皆様へ（新型コロナウイルス感染症）

参考：厚生労働省HP
感染リスクが高まる「５つの場面」

イベント再開における注意事項

【運営】

■基本的注意事項
- 出演者・スタッフ・来場者は入場の際は、必ず手指消毒を行う。
- スタッフは出演者やお客様の入場時間を分けるなどして密にならないように会場内への案内を行う。
- 屋外でのイベント・コンサートは換気は十分に取れているものの、飛沫感染対策・接触感染対策には注力して行う。
- 本番終了後、出演者・ご来場者に速やかに帰宅を促す。
- 演者やスタッフ同士の打ち上げはできる限り行わないようにする。

■飛沫感染防止対策
- 会場内にて出演時・リハーサル時以外は、常にマスクを着用する。

■接触感染防止対策
- 会場にいる運営スタッフはアルコールと布巾を携帯し、常に消毒作業を実施できるように準備しておく。

■エアロゾル感染防止対策
- 1 時間以上のイベントの場合、必ず休憩時間を設け、会場扉や窓をあけるなどして、自然換気を行う。

■感染ルート追跡
- 出演者・スタッフの入室記録を行う。

【客席】

■基本的注意事項
- できる限り、イベントやコンサートは無観客開催が望ましい。
- 入場の際は、必ず検温と手指消毒を行う。
- 感染症対策に関するアナウンスを必ず行う。

■接触感染防止対策
- オンラインチケットなどを利用し、金銭の授受がある場合は、トレイを使用するなど直接手が触れないように対応する。

【舞台・出演者】

■飛沫感染防止対策
- 舞台上、ステージエリアの立ち位置は 1~2mの間隔がとれるように設定する。
- 舞台上では、できる限りマスクやアクリル板等飛沫物を遮蔽するものを用い、ボイスパーカッションには特に飛沫感染対策を講じること。

■接触感染防止対策
- ボイスベース、ボイスパーカッション担当の方には、マイマイクの持込を推奨する。
- マイクに関しては、演目毎にアルコール消毒するなど感染対策を講じる。
- 消毒の時間を十分に設けるため、会場側と相談しできるだけ多くのマイクを用意する。

【控室】

■飛沫感染防止対策
- 控室内では、飛沫を伴うため、声だしの練習等はマスクを着用すること。

■エアロゾル感染防止対策
- 対象方向にある２か所の窓（なければ、機械換気を使用して）を開けるなどして換気を行う。換気ができていない部屋であれば使用は禁止し、屋外での待機、広さに応じて入室できる人数を制限して対応すること。
- 客席なども控室や待機場所として利用して密を避けるための対策を講じる。

【ライブハウス等の施設会場で活動を行う場合】

- ライブハウス等、施設会場で行う場合はその各会場が提示している対策や方針と併せて本ガイドラインを使用することを推奨する。

作成協力：医師　伊藤玲哉

AJAA
All Japan A cappella Association